

- ◎招集年月日 令和5年10月20日(金)
- ◎開催日時 令和5年10月26日(木) 午後3時～午後4時39分
- ◎場所 伊那市役所 庁議室
- ◎出席委員 笠原教育長、北原教育長職務代理者、田畑教育委員、黒河内教育委員
- ◎欠席委員 原田教育委員
- ◎出席職員 三澤教育次長、宮下学校教育課長、北林子ども相談室長、矢澤生涯学習課長、早川市誌編さん室長、小島社会教育指導員、福興指導主事、酒井指導主事、伊藤教育総務係長

1 開 会

2 あいさつ 教育長

- ・旧高遠町最後の教育長、伊那市・高遠町・長谷村の合併までの間、教育長をお勤めになられた中原先生がお亡くなりになった。
- ・著書の高遠物語の巻頭では、先生は「古い歴史と豊かな自然に恵まれた高遠で生きる誇りと喜びを感じながら日々の生活を送っています。教育長として勤めていた頃から高遠について多くの方々からいろいろと教えていただいたり、資料から学んだり、素晴らしさを実感していました。」そのようにいっておられる。
- ・先生の人柄が伝わる言葉と思いながら弔辞を読ませていただいた。ご冥福をお祈りしたい。

3 会議事項

第1 教育長報告

- ・教育長から資料に基づき報告。

第2 協議事項

教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書について

- ・学校教育課長、子ども相談室長、生涯学習課長、市誌編さん室長から資料に基づき説明(質問・意見なし)

第3 報告事項

(1) フィンランド視察状況報告【前編】

○委員

白鳥市長、長野県林務部3名、商工会議所2名、ミドリナ委員会2名、森林関係者2名、それから教育委員会から私と田畑委員さんと酒井指導主事、伊藤課長補佐が参加し、5泊8日で参加した。日程の半分は森林、半分は教育に関係した場所で、首都ヘルシンキから電車で4時間ぐらいの地方都市ヨエンスー市で、教育委員会のようなところから話を伺ったり、小中学校一貫校を訪問したり、保育園や公共図書館に寄ったり、伊那市と提携、繋がっている北カルラヤ県のマルクス知事とも交流したり、林業専門学校を訪問したり、学生とサウナで交流できたりする日程だった。

事前に本を読んで、幸福度ランキングが世界一、ワークライフバランス上、労働時間が短く、SDGs 脱炭素の取組が進んでおり、日本の政策はフィンランドをモデルにしているのではと思うくらい揃っていて、当時注目された34歳の女性の首相がおられたり、女性も大活躍していて政治家もどんどん育休をとる、子育てしやすい一方で、ロシアとの国境を接しており、NATOに加

盟したり、徴兵制があったりという国でもある。また、失業率は非常に高く、人口は550万人ということで日本の20分の1以下で、どこに行っても人があまりいない、渋滞もないような国。

森林が多く、林業や製紙業があり、ノキアという携帯電話・情報通信の会社はあるけれども、失業率は非常に高く、人に投資して人を支えていこうという70年代ぐらいからそんな取り組みを始めたとお聞きしている。

学校については小中一緒の9年間、高校3年間、その後大学や職業学校へいく。授業料も給食も全部無料で国が保障し、私立学校はそもそもなく、先生は大学院の修士号を取得しており、尊敬されていて、先生に保護者が意見を言うことも少なく、ゆったりしている。

国と自治体の間に県はなく、国の方針に従って各学校が大きな裁量を持って教育をしている。塾もないし宿題もあまりない、部活動もないので先生たちも時間がある、子どもたちはなるべく外で、森の中で遊んでいるという。

ヘルシンキの首都の公共図書館では、本が置いてあるだけではなく、行政の情報があつたり、ホールで映画が見られたり、3Dプリンターがあつて、いろんなものを作れたり、テレビゲームができる部屋にはソファがあり快適に遊べたり、図書館というイメージを超え、人が集まる場所でした。

数日フィンランドに行っただけで何か学ぶことは難しいが、伊那市とフィンランドは似ているところがあり、森林資源があつて、教育という伊那小に代表される学びの一つの伝統がある。一方フィンランドの起業家教育は新しく、次回お話できたらと思う。

森林で学ぶことについて、何か特別なことをしているわけではなく、ただ遊ばせるだけのイメージでしたが、今後伊那市では、今回一緒に視察した森林関係の皆さんと一緒に話をしたりしながら、何か考えていくと良いと思う。

また、北カルヤラ県との関係は今後も続く、桜を植樹しようという案も出ており、次回訪問の際は、教育長さんはじめ、多くの方に訪問していただき、日本が目指す国の一つのあり方として何か体験すると、イメージの共有ができて良いのではないかと感じる。

教員の忙しさ解消に取り組まないと、フィンランド的なものを取り入れることも難しいので、今進めている地域移行にしても、働き方改革にしても、進めていく必要あると感じた。

○委員

学校は画期的に違う感覚も持っていたが、国の成り立ち、国の予算のかけ方、考え方が全然違うので、日本は日本なりにベストを尽くしていると感じた。

予備校や学校以外の教材教育産業で学校の授業を補填する考え方はなく、あくまでも教育は国が責任を持って無償で国民に施していくものという考え方で、子どもの将来へ通じる道は親が責任を持ってサポートしていくことがベースになっている。

何のために勉強するのかについては、フィンランドではどこの大学に行ったか問題ではなく、どこの学位まで取ったかが評価されており、大きな違いと感じた。

日本では、最終的に企業に入ると学びに関しては止まるイメージがあるが、フィンランドでは例えば経済系で就職したあと、林業現場に入りたければ現場の技術を学べる学校に入ることもできる。生涯学習とは異なり、生涯通じて学び続ける環境があり、素晴らしいことだと感じた。

学びは、自分の人生を幸福にするための材料であり、何を学んで何を見つけて、自分の人物像をつくっていくような概念が育まれていく土壌がある。また、起業家教育について勘違いしているところがあつて「起業家教育は社長になるためですか。」という問いに「いや違います。」という答えが返ってきた。そこはまた次回やらせていただく。

今、クラブ活動を外に出すという話があり、スポーツばかりがクローズアップされるが、社会を学ぶクラブや地域の大人と活動するクラブ活動が主軸になると、新しい形の日本版の起業家教育、地域の教育力に繋がっていくと感じた。

- (2) 伊那市中学生キャリアフェス2023の開催について
- ・学校教育課長から資料に基づき説明
(質問・意見なし)
- (3) ICT Conference2023 in INA
- ・学校教育課長から資料に基づき説明
(質問・意見なし)
 - ・委員から「悉皆研修は、皆さんどのように参加されるのか。」との質問があり、学校教育課長から「メイン会場の春富中学校に集まるのは春富中学校と東春近小学校の参加者で、その他はブロックに分けて、双方向のオンラインにより、研究授業等を行う形となる。」旨の回答があった。
- (4) 人権同和教育事業について
- ・社会教育指導員から資料に基づき説明
 - ・委員から「内容がとても良いと感じるが、何部印刷して、どこに配布しているか。」との質問があり、社会教育指導員から「カラー印刷の予算をいただき255部印刷、社会教育委員、地区の育成会と委員、生涯学習センター、図書館、議員の皆さん、南信教育事務所、警察、人権委員などの皆様に配布をしている。小中学校、保育園、公民館はデータで送り、増刷りしており、学校では保護者やコミュニティスクール関係の皆さんに配布していると思うが白黒印刷が多く、QRコードで見てくださいようお願いしている。」旨の回答があった。
 - ・委員から「安心安全メールを使うことも考えられる。」との意見があり、社会教育指導員から「配信ソフトを使っている市町村もあるので、そういうものがあればできると思う。」、また、生涯学習課長から「ホームページのリンク先を安心安全メールで送る運用もできると思う。」旨の回答があった。
- (5) 市誌編さん事業の進捗状況について
- ・市誌編さん室長から資料に基づき説明
 - ・教育長から「協力体制はどうか。」との質問があり、市誌編さん室長から「委員20名で作業を進めているが、委員以外の方に協力いただきたい箇所があり、教育長から協力員を委嘱し、調査や原稿を書くお願いをしている。」旨の回答があった。
- (6) 11月以降の文化施設の行事日程について
- ・生涯学習課長から資料に基づき説明
(質問・意見なし)
- (7) 共催・後援について
- ・学校教育課長から資料に基づき説明
(質問・意見なし)
- (8) その他
- 第10回キャリア教育かみいな協力会 in 箕輪町
 - 第2回JACOTシンポジウム(コーディネーショントレーニング)
 - ・学校教育課長から説明
(質問・意見なし)

4 その他

(1) 11月の日程について

(2) 12月以降の主な行事予定について

○三澤教育次長から(1)から(2)まで、資料に基づき説明

(質問・意見なし)

○11月20日の教育委員と社会教育委員の懇談テーマについて

・生涯学習課長から資料に基づき説明

(質問・意見なし)

5 閉会